

地域レジリエンス学環 アセスメントプラン

1 アセスメントの目的

学生や社会の状況を捉え、データに基づくカリキュラムおよび個々の授業、そして学習支援の改善を継続的に行うことを目的として、学修成果のアセスメントを行う。アセスメントにあたっては、直接評価と間接評価の双方を取り入れる。前者については成績や学籍異動の状況に関するデータを収集し、後者については全学生に対して毎年実施するアンケートを中心にデータを収集する。アンケートについては縦断的な調査を行うことにより、総体としての学生の状況だけでなく個々の学生における能力や学習状況の変化を追跡する。これにより、個々の学生に対する学習支援の改善を行う。さらに、成績評価の結果や学籍異動の状況に関するデータと併せて分析することで、休学・中退や成績不振の予測などへの活用を図る。

2 達成すべき質的水準

達成すべき質的水準は、地域レジリエンス学環のディプロマ・ポリシーにおいて定めている。ディプロマ・ポリシーにおいては、下記の人材を育成することを目指している。

- ① 工学、理学、農学、経済学、文学を中心としたレジリエンスに関する分野横断的な専門知識と能力を身につけている
- ② ICTやデータを利活用して、地域社会における課題の発見や分析、新しい付加価値やサービスの創出、生産性の向上のために貢献することができる
- ③ ステークホルダーと良好な関係を構築し、他分野・多職種の人材と協働しながら、地域のレジリエンス向上のための課題解決に向けた取組を実践することができる

修士論文においては、「地域のレジリエンス向上に寄与する研究課題を設定している」「研究方法や倫理的配慮が妥当である」「学位論文として先行研究や既知事実の調査が十分に行われ、根拠に基づいた検証がなされている」「文献が適切に引用され、論旨の一貫性がある」「修士論文としての体裁が整っている」といった基準を満たすものについて合格と判定している。加えて「リサーチ・ルーブリック」において12つの観点のうちすべてにおいてB以上（A、B、C、Dの4段階中）に到達することを目標としている。

3 アセスメントの方法

No.	名称	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	手法	実施責任部署	結果の活用方法
1	修了予定者アンケート	毎年1月～3月	修了学年	トランスファラブルスキル・愛大学生コンピテンシーの習得状況、DP達成状況、リサーチワーク満足度と難易度、学習支援・学習相談の満足度	Webアンケート	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構が教育学生支援会議に報告し、学環のカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
2	修了生調査	修了から3年を迎えた修了者	修了者	現在の就職状況、転職または離職の経験や意向、提供してほしい授業科目、学んでほしい授業科目や教育プログラム	アンケート 又はヒアリング	教育・学生支援機構	授業方法やカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実・改善、自己点検・評価に活用
3	学期末アンケート	学期末	全学年	学習行動、授業・カリキュラム満足度	Webアンケート	地域レジリエンス学環	授業方法やカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実・改善、自己点検・評価に活用
4	学生代表者との意見交換	毎年度	全学年	授業・カリキュラム、学習環境の改善及びキャンパスライフの向上に関する事項など	対面又は遠隔により教職員と意見交換	教育・学生支援機構 地域レジリエンス学環	授業方法やカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実・改善、自己点検・評価に活用
5	修了生の就職先等への意見聴取	概ね5年に1回程度	修了生の雇用先	修了生に求める能力、DPが身に付いているかどうか、学環教育に求めるもの	アンケート 又はヒアリング	地域レジリエンス学環	教育の改善およびカリキュラムの見直しのための参考資料
6	研究進歩の発表会	毎年度	全学年	修士論文に関わる研究の到達度	発表会形式	地域レジリエンス学環	リサーチループリックを用いて、自身の研究テーマや進捗状況、課題を確認
7	修士論文発表会・審査会	毎年2月	M2	研究内容のプレゼンテーションと質疑応答	発表会形式	地域レジリエンス学環	リサーチループリックを用いて、修士論文の審査・評価